

令和4年度 こども園（保育園）関係者評価
施設評価シート

子育てセンターさやのもり

こども園（保育園）関係者評価委員会による評価

対象評価： 最終評価 4

評価日時： 令和5年 2月 28日（火） 14:30 ～ 16:30

【こども園（保育園）関係者評価委員会構成】

学識委員 2名 地域委員 2名 保護者委員 2名

【園の教育・保育目標】

感謝の気持ち・自己肯定感・貢献感の持てる子を育む
～ 子どもの心の理解 ～

【本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した
こども園（保育園）評価の具体的な目標や計画】

- 1 自分大好き・友だち大好き・ありがとうがいっぱい ～子どもの心の理解～
- 2 子どもの心と身体の成長を共に喜び合おう

【評価基準について】

- 4・・・十分に達成されていた
- 3・・・ほぼ達成されていた
- 2・・・取り組みは見られるが達成が十分ではない
- 1・・・取り組みが不十分であった

項目	園評価	評価理由	最終評価	評価委員から
I. 目標の理解 1. グランドデザインを理解している 2. グランドデザインを意識している 3. 重点目標を意識している 4. 重点目標を意識して取り組んでいる	4	園の教育・保育目標は、職員会議・園内研修・カンファレンス等で共有し、職員一人ひとりが理解・確認できるよう時間を設けている。また、日々の保育・教育計画に7つの活動を取り入れ、子ども達の心身の発達に向けて概ね実践を積み重ねてきた。毎月の『振り返りシート』の職員のコメントからもわかるところであるが、掛川市教育委員会訪問の際にも「重点目標の意識づけをして取り組んでいることが伺える」と評価を頂いている。	4	毎月の『振り返りシート』の取り組みの活用が目標の理解につながっていてとても良い。「物を大事にできる人は、人を大事にできる」という保育者の言葉が子ども達に伝わり、子どもの成長に繋がっている。グランドデザインを意識した活動内容であり、意識して取り組んでいることが分かる。
II. 教育・保育の計画性と内容 1. 指導計画の作成 2. 環境への配慮 3. 教育・保育活動の実践 4. 計画と実践の評価・反省	3	重点目標達成に向けた活動を、毎月の指導案立案の際に意識し、落とし込むことが出来ていた。物を大切にすること・年齢に合った絵本や教材の提供・衛生面への配慮等については、丁寧に実践できていない部分が反省である。また、教育・保育活動の実践については、保育の連続性を意識した環境作りがもっと出来たのではないかと反省する。	4	この項目は、参観を通した取り組みだけで評価するのは難しく、職員の評価理由を尊重し評価するべきだが、教材研究や参観会の日案の立案からも年齢に応じた遊びの提供と配慮など、内容が充実していたと感じることができる。
III. 子どもにとっては 1. その子らしさが認められる 2. ゆったりとした生活 3. 自然に触れて心行くまで遊ぶ 4. いろいろな人の中で自分を知る	4	子どもを取り巻く環境を整え、子ども達の安心安全な環境を意識し、過ごせるように努めた。その季節ならではの遊びを提供し、自然に触れることが出来るよう、活動内容や教材等の工夫をした。また『振り返りシート』の活用を通して「エピソード記録」をとることで、言葉にならない心の動きに気付いたり、子どもの行動の理解や子どもに寄り添った関わりを意識することが出来た。畑での野菜作りを通して地域の方々と触れ合いながら野菜の生長や収穫の喜びを味わうことが出来た。	4	活動のねらいがしっかり考えられており、遊び環境が十分整えられ、子ども達がいきいきと活動していると感じる。その子らしさを認めてもらい安心して過ごさせているのではないかと。活動と評価が繋がっている。

Ⅳ. ファミリーにとっては 1. 気軽に相談できる 2. いつでも保育に参加できる 3. 必要な情報が得られる 4. 保育を通して地域に親しむ	4	今年度も、保護者参加型の行事や個人面談など、感染症対策を講じながら開催した。保護者からの質問や利用者アンケートの回答等から、園の思いと保護者ニーズのズレが見られ悩むこともあった。毎月のブログやお便りなどで、活動や取り組みの意義や様子などを具体的に発信をするよう心掛けた。また、今年度は園内研修や防災訓練の様子など、園の取り組みや職員育成についても発信し、タイムリーに子ども達の様子が伝わるよう工夫した。また、各学年の懇談会では、保護者同士の討議を取り入れ、子育てに必要な情報が得られたとの感想を頂いた。	4	園からの情報発信の方法や内容の検討が必要だと感じる。園の活動や思いを、どこまで発信していくかがポイントになっていくのではないかと感じる。利用者アンケートから、保育ニーズを把握し、発信の工夫をしていくとよい。
Ⅴ. 地域にとっては 1. 誰でも親しく訪ねられる 2. 園の内容がよくわかる 3. 緊急の時頼りになる 4. 子育てに夢がもてるように	4	毎月のブログ更新や、子育て通信誌「ぬくとんぼ」の定期的な発行・地域回覧を行うことで、定期的に園からの情報発信は出来ていると考える。一時預かり保育事業や子育て支援センター事業を利用されている方も多く、地域ニーズに応えるよう努力している。自園は「福祉なんでも相談窓口」となっており、子育ての様々な悩みを相談できる仕組みがあり、掛西学園ボランティアの皆さんによる草刈りや防災訓練への参加など、地域の中のことでも園として連携も深まっている。	4	園と地域ボランティアとの活動連携ができています。地域に子ども達の声が聞こえたり、散歩を楽しむ姿を見たりすることができ、地域にとっても園の評判は良いと感じます。
Ⅵ. スタッフにとっては 1. 個性が生かされる 2. 快適な職場づくり 3. 生活や遊びの文化が伝えられる 4. 視野を広げて自ら学ぶ	3	園内研修への参加が十分できていたが、外部の研修にはあまり参加できていないのが現状である。教材研究などにおいても、公開保育など他園での取り組みを学びに実践するが、コロナ禍の中での参加に難しさを感じた。ピアノや手芸・ダンスなど、職員の得意な事を、教育・保育活動に活かしている面もあるが、他職員の理解の面では、大きな集団である分、共有が難しいこともある。保育部・幼児部でフォローし合い、ノンコンタクトタイム（※1）を有効的に活用できるよう協力したり、定時に仕事が終了できる仕組みの定着が課題である。 （※1） 厚生会としてのノンコンタクトタイムの定義 ①業務時間であり、休憩とは別である ②子どもから離れて行う事務作業や教材準備などに集中できる時間を指す。	3	職員一人ひとりの考え方が反映する部分であり、自分自身に対して厳しく評価していると考えられる。職員の学ぶ姿勢は大変よく分かる。コロナ禍であっても園外の研修に積極的に参加し、自園に活かせるように出来ると良い。今後に期待してこの評価とする。